

第 198 回 定時株主総会 質疑応答要旨
(2023 年 3 月 28 日)

Q1	自動車用塗料の注力ポイント・戦略を教えてください。
A1	自動車用塗料に限らず顧客のニーズが脱炭素・省エネにシフトしています。自動車業界では、有機溶剤を使用する塗料から水性塗料へのシフトと、CO2 排出量削減のニーズが高まっており、自動車の製造ラインにおいては、塗装工程のウェイトが高く相当なエネルギーを消費します。当社は環境負荷を考慮し、水性塗料へのシフトを進めつつ、低温で硬化する塗料や塗り重ね時の乾燥工程を減らすことができる水性塗料の開発を進めており、これをなるべく早く市場に投入したいと考えています。また、CO2 排出量削減を目的化するのではなく、新たなビジネスチャンスと捉え、収益に繋げられるよう技術開発・マーケティングを行ってまいります。
Q2	今後の国内の建築用・船舶用塗料の展望を教えてください。
A2	当社は、自動車用塗料では他の 1 社と、建築用では他の 2 社とで市場をほぼ独占しており、また、工業用（コイルコーティング・建設機械・農業機械・鉄道車両等）では高いシェアを誇っています。国内市場の規模の大きな成長は望みにくいですが、当社の成長が期待できないわけではありません。高いシェアを活かし、顧客の課題を解決するような技術開発により、ウィー共同社長とともに、更にシェアを高められるように取り組んでまいります。
Q3	持株会社体制における研究開発の進め方、10 年後・20 年後を見据えた技術開発の取組みを教えてください。
A3	当社グループにとって技術力は命綱であり、競争優位をもたらす要素であります。持株会社である当社は、「アセット・アSEMBラー」モデルにおいて、官僚的なシステムの排除、意思決定の迅速化により様々な権限を現場に委ねており、技術開発では、日本ペイントコーポレートソリューションズ(NPCS)に国内の研究開発機能を集約し、また、NIPSEA グループの CTO（最高技術責任者）が日本グループの CTO を兼任しています。これにより、グループ各社の研究開発リソースを集約し、10 年後・20 年後を見据えた基礎研究や製品化に向けた研究を進めてまいりますのでご期待ください。

以 上